

森からのおくりもの

森づくり・人づくりに

秋期「緑の募金」活動

秋の緑の募金期間が「九月一日から一〇月三十一日」まで取り組まれます。

きれいな空気、おいしい水、心身の癒やし、地球温暖化防止など、森林は、わたしたちの豊かな生活を支え、多くの恵みを与えてくれます。しかし、国内では手入れ不足等によって森林が本来のはたらしを發揮できていません。

皆さまのご協力は「緑の募金」を通して、身近な地域や国内外の森づくりにつながりさまざまに「森づくり・人づくりに」活動の活性化に活かされます。

また、緑の募金活動は、森林のある豊かな暮らしを未来につなぐとともに、SDGs（二〇三〇年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」）への貢献にもつながっています。



期間中は、「緑の羽根」の着用

に心がけて「緑の募金」の広がりにもご協力ください。

よろしくお願います。

誌上 森林環境教育

中学生からの質問

「木によって肌がいろいろなのは どうして」？

樹木の幹の木部の外側を包んでいる組織、形成層より外側の全組織を樹皮といい、木部を外側から保護する役割。年数を経るにつれて樹皮を構成する組織には様々な変化が見られる。

シラカンバ、ハンノキ、ブナなどは、はじめに表皮の内側にできた円周状の科尔ク形成層が長い時間をかけて自分自身の円周を広げながら外側に科尔ク組織を作る。その科尔ク組織は細胞の大きさや壁厚の異なった成長層を作るので、円周の増加に追いつけなくなると成長層を境に外側がはじめて、紙状に薄く剥がれる。

スギは、科尔ク形成層が内側に一定の間隔で縦に規則正しい形をとるので、縦に長く皮が裂ける。

カラマツ、アカマツなどの、新しい科尔ク形成層は盾状の面が不規則に重なり合っているため、外樹皮は鱗状に裂けるものが多い。

キハダ、カシワなどの樹皮は、科尔ク層が厚く発達していて、深いみぞ状の割れ目が著しく凹凸状になっている。

もっと知りたい森と木の話
(北海道林業改良普及協会)

編集後記

「異常な暑さの夏、まっこと おじた」の声・・・
頬にあたる風は、日ごとに・・・を。
体調に留意のうえ、次の季節を迎えましょう。



「根粒菌」(こんりゅうきん) について



アキグミ(写真)は、秋になると直径5ミリほどの赤い実をたくさん実らせます。グミ属の樹木の根を掘り取ってみると、根には瘤(こぶ)のようなものが。これは根粒(根瘤)とよばれるもの。

根粒は、窒素固定菌であるフランキア菌が根に感染することで作られる。ネムノキやハギといったマメ科の樹木の根にも根粒は作られるが、根粒を形成する微生物の種類は樹種によって違っている。空気の成分の約8割は窒素。

窒素はアミノ酸やタンパク質として生物の生育に不可欠ですが、殆どの生物は空気中の窒素ガスを直接利用することができない。

生物が利用できるアンモニアに窒素ガスを交換する(窒素を固定)ことができるのは、窒素固定菌と呼ばれる一部の微生物だけ。

フランキアはそのひとつ。グミの根に感染すると根粒を作り、その中で大気中の窒素をアンモニアに変換。アンモニアはグミの栄養分として利用される。河川敷など栄養分の少ない環境でも、この働きによってアキグミは良好に生育する。

季刊 森林総研48号 より
(森林総合研究所発行)